



令和8年8月3日

文化推進室

川口市立美術館 開館記念特別展
「蜷川実花展 はじまりの光」

9月にグランドオープンを迎える川口市立美術館は、川口市ゆかりの写真家・映画監督・現代美術家として国内外で高い評価を受け、日本を代表するアーティストの一人として活躍する蜷川実花氏による川口市立美術館開館記念特別展を下記のとおり開催します。

記

1 日 時 9月12日（土）～11月29日（日）10:00～18:00
【休館日：月曜日（祝日の場合は翌平日）】

2 場 所 川口市立美術館（川口市川口3-1-2）

3 チケット

（1）販売日 8月7日（金）から

（2）販売方法 オンライン、窓口（文化推進室、川口総合文化センター・リリア
2階チケットセンター）

（3）価 格 オンライン：一般1,800円、大学生1,300円、高校生 800円
窓口（前売）：一般1,800円、大学生1,300円、高校生 800円
窓口（当日）：一般2,000円、大学生1,500円、高校生1,000円
※中学生以下は無料



川口市立美術館
ホームページ

※窓口での前売販売は、9月11日（金）まで（数量限定）

※詳細は川口市立美術館ホームページをご参照ください。

<https://kawaguchi-moa.jp/>

2026 年 8 月 3 日

「蜷川実花展 はじまりの光」PR 事務局

感性の原点の地で明かす、アーティスト・蜷川実花の核心

川口市立美術館 開館記念特別展

「蜷川実花展 はじまりの光」開催

約 30 年に及ぶセルフポートレート、父・蜷川幸雄の書斎の移設展示など

知られざる創作の源流をたどり、クリエイションの真骨頂に迫る

2026 年 9 月 12 日(土)～2026 年 11 月 29 日(日) 川口市立美術館にて



両親のアルバムを自ら複写した新シリーズ『First Light』より

アーティスト蜷川実花は、川口市立美術館 開館記念特別展「蜷川実花展 はじまりの光」を 2026 年 9 月 12 日(土)～2026 年 11 月 29 日(日)まで、川口市立美術館（埼玉県川口市川口 3 丁目 1-2）にて開催いたします。

埼玉県川口市は、父である演出家・蜷川幸雄の出身地であり、蜷川実花自身も幼少期を過ごすなど、創作の原風景ともいえる場所です。本展は、幼少期に形成された感性の原点をたどりながら自身の表現をあらためて切り拓く、新たな挑戦となる個展です。近年取り組んできた大規模なインスタレーション表現ではなく、創作活動の出発点である「写真」を軸に、映像作品や家族の記憶を織り交ぜながら自らの創作の核心へ

と迫ります。「写真」本来の表現を通し、一瞬の光の中に閉じ込められた世界と記憶の輪郭を鮮やかに描き出します。自身と家族の原風景であり最も深い記憶が眠る川口の地だからこそ実現する展覧会です。

蜷川実花、感性の原点の地でクリエイションの真骨頂に迫る

埼玉県川口市。蜷川実花の感性は、この街で形成されました。

今も脳裏に焼き付くのは、見世物小屋の異形や鯉の血しぶき、飴玉の光、ピンク映画の看板、電灯の揺れ。おかめ市（酉の市）の雑踏の中で彼女が体験したのは、現実と虚構の境界が曖昧で不安定に揺れ動く世界。この揺らぎこそが、蜷川実花の、見る者を「引きずりこむ」クリエイションに大きな影響を与える起源となるのです。

本展は、蜷川実花自身を作り上げてきた要素に焦点を当て、二つの章で展開されます。

入口のある2階に展示する第一章は、初公開の新作を含む「写真」で構成されます。自身のデビュー作であり、約30年に渡り断続的に記録してきたモノクロのセルフポートレートはまさしく原点。自らの存在を確かめるように実験的に撮り重ねられてきました。さらに、2014年に父・蜷川幸雄が倒れ、死へと向かう1年半を記録し続けた『うつくしい日々』。彼女が「逝く人の目で撮った写真」と表現する本作は、死と向き合うことで再確認されるこの世の美しさ、その瞬きの中にしか存在し得ない風景や感情を留めています。ありとあらゆる瞬間が決定的であり、その時間にしか存在しない儚い世界を切り取る「写真」。誰もがスマートフォンを持ち歩き、簡単に表現ができる現代だからこそ、世界をどう捉えて何を切り取るか、そして「自分の中に何があるのか」という問いと改めて向き合い、表現を突き詰めます。

階段を下がってM2階に展示される第二章では、蜷川実花自身の表現世界に最も大きな影響を与えた家族との記憶に迫ります。川口の地だからこそ明かす、かつてないほど個人的で内面的な世界を通し、自身の根源と深く対峙する特別な空間が広がります。当時の気配をそのままに宿す蜷川幸雄の書斎の移設展示、元女優でキルト作家の母・蜷川宏子のキルト作品、さらに若き日の両親が映るアルバムを発見し、それを蜷川自ら複写した新しいシリーズ『First Light』などが一つの流れの中に共存します。これまで触れてこなかった家族との記憶をたどり、自身の人生を紐解きます。

デビュー以降約30年、多彩に表現領域を広げ続ける中でも、自らの心が動いた一瞬にだけシャッターを切り、目の前の存在や自身の内面とまっすぐに向き合い続ける姿勢は一貫しています。「写真」本来の表現を研ぎ澄まし、幼少期の記憶が眠る感性の原点ともいえる地・川口で一瞬の光の中に閉じ込められた世界と記憶を紡ぎ出すことで、蜷川実花のクリエイションの真骨頂に迫ります。

一部作品紹介

《 First Light 》

本展で初公開となる最新シリーズ。若き日の両親が写るアルバムを発見し、蜷川自ら再撮影（複写）した作品です。当時の写真へ娘の視点から再びレンズを向けた本作は、両親の思い出に蜷川自身の新たな記憶や情念を重ね合わせ、「写真」の持つ価値を再定義します。



First Light, 2026
©mika ninagawa / bookshop M Co.,Ltd.
/ Courtesy of Tomio Koyama Gallery

《 Self-image 》

モノクロのセルフポートレートはデビュー作でもあり、当時から現在に至るまでの約 30 年間を断続的に記録。20 代から最新のものまでが一同に会するのは今回が初となり、アーティストとしての内なる変化をありのままに描き出します。怒り、不安、戸惑い、寂しさ、虚無といった感情が刻まれる作品群は、創作の葛藤の中で自らの存在を確かめる記録でもありました。



Self-image, 2013
©mika ninagawa / bookshop M Co.,Ltd.
/ Courtesy of Tomio Koyama Gallery

《 うつくしい日々 》

父・蜷川幸雄が倒れ、死に向かう一年半の日々を撮影した写真。

「逝く人の目で撮った写真」と表現される本作は別れゆく父の視線と、それを受け継ぐ娘の視線が重なります。死と間近で向き合う先に見える、世界の美しさ。そして命は止まったようでありながら、娘へ、そしてその子供へと脈々と受け継がれる生命のまばゆい循環の中で、シャッターを切り続けた日々の記録。そこに写るのは死の影ではなく、光に満ちた眩い日常の輝きです。



The days were beautiful, 2017
©mika ninagawa / bookshop M Co.,Ltd.
/ Courtesy of Tomio Koyama Gallery

《 蜷川幸雄 書斎移設 》

膨大な書籍や美術資料で埋め尽くされた父・蜷川幸雄の書斎は、蜷川実花がいつも遊んでいた思い出のある特別な場所。蜷川幸雄が演出する舞台作品の世界がそのまま家の中に存在する、現実と虚構の境界が曖昧な空間でもありました。蜷川幸雄が亡くなって 10 年が経った今、当時の気配をそのままに宿す書斎を移設展示する試みが実現します。



<書斎>©ニナガワカンパニー

蜷川実花 [にながわみか] / 写真家、映画監督、現代美術家

写真を中心として、映画、映像、空間表現も多く手掛ける。

木村伊兵衛写真賞ほか数々受賞。2010 年ニューヨークの Rizzoli から写真集を出版。

『さくらん』(2007 年)、『ヘルタースケルター』(2012 年)、『Diner ダイナー』(2019 年) など 5 本の長編映画、および Netflix オリジナルドラマ『FOLLOWERS』(2020 年) を監督。

近年は蜷川実花 with EiM として、クリエイティブチーム「EiM (エイム)」とともに大規模なインスタレーションを手掛けるなど、表現の幅を広げている。これまでに写真集 120 冊以上を刊行、個展 150 回以上、グループ展 130 回以上と国内外で精力的に作品発表を続ける。京都市京セラ美術館で開催された個展「蜷川実花展 with EiM : 彼岸の光、此岸の影」(2025 年 1 月～3 月) では、25 万人を動員した。2026 年 12 月 16 日～2027 年 3 月 21 日まで、フランス・パリのグラン・パレにて大規模個展「Mika Ninagawa with EiM : Alive with shadows」を開催予定。

最新の写真集に『VIRA』(bookshop M Co., Ltd.、2026 年)、『mirror, mirror, mirror』(光村推古書院、2026 年) がある。

<https://mikaninagawa.com>



展覧会概要

- ・名称：川口市立美術館 開館記念特別展「蜷川実花展 はじまりの光」
- ・会期：2026 年 9 月 12 日(土)～2026 年 11 月 29 日(日)
- ・開館時間：10:00～18:00

※会期中、夜間開館を実施します。詳細が決定しましたら、川口市立美術館ホームページ等でお知らせします。

- ・休館日：月曜日(9 月 21 日、10 月 12 日、11 月 23 日は開館)、9 月 24 日、10 月 13 日、11 月 24 日
- ・場所：川口市立美術館(埼玉県川口市川口 3 丁目 1-2)
- ・主催：川口市
- ・公式サイト：<https://kawaguchi-moa.jp/>

チケット

- ・前売・オンライン料金

一般：1,800 円 大学生：1,300 円 高校生：800 円 中学生以下無料

- ・当日料金

一般：2,000 円 大学生：1,500 円 高校生：1,000 円 中学生以下無料

※前売券は、8 月 7 日(金)から 9 月 11 日(金)まで販売します。

※前売券は、8 月 7 日(金)より川口市役所第二本庁舎 3 階文化推進室、川口総合文化センター・リリア 2 階チケットセンターにて販売開始します。その他の販売場所については、決定次第、川口市立美術館ホームページにてお知らせします。

※オンラインチケットは、川口市立美術館ホームページにて販売します。
※詳細は、川口市立美術館ホームページをご参照ください。

川口市立美術館について

川口市立美術館は、JR 川口駅西口徒歩 2 分、川口総合文化センター・リリア隣に 2026 年 9 月にグランドオープンする、新たな文化拠点です。鋳物産業をはじめとする「ものづくりのまち」として育まれた川口の歴史と創造性を未来へつなぎ、「継承」「共生」「育成」を理念に、市民と芸術がつながる場を創出します。展示室に加え、ライブラリー、ミュージアムショップ、レストランを備え、訪れる人が思い思いに過ごせる「公園のような美術館」を目指します。展覧会やラーニングプログラム、地域との協働を通じて、川口ならではの文化を育み、新たな創造と交流を生み出す拠点として歩み続けます。